

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人北海道大学

1 全体評価

北海道大学は、札幌農学校に遡る長い歴史の中で培われてきた「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」の4つの基本理念を掲げ、知の拠点として、日本と世界の持続的発展に貢献することを目指している。第3期中期目標期間においては、「北海道大学近未来戦略150」に掲げる、様々な課題を解決する世界トップレベルの研究の推進、専門的知識に裏付けられた総合的判断力と高い識見、並びに異文化理解能力と国際的コミュニケーション能力を有し国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材の育成等の方針に沿って、「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」に向けたあらゆる活動を推進することを基本的な目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、総長直轄の機動的な組織として、「未来戦略本部」を設置し、大学改革を推進するための体制を整備するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 札幌市との地域振興の推進について、これまでの活動について検証を行い、地域の課題や可能性にアプローチする多彩な人材を結びつけるエコシステムの構築が必要との結論に達したことを受け、札幌市に対しては「札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会」の場を活用した、大学が中心となって進める具体の事業内容、ミッション等に関する提言を行うとともに、同協議会が申請した内閣府公募事業「スタートアップ・エコシステム拠点都市」におけるヒアリングに同行するなどの支援を行っている。これにより、7月に「推進拠点都市」の一つに選定されている。（ユニット「国内外の地域や社会における課題解決・活性化への貢献」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、令和元年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 大学改革を推進するための体制の整備

大学を取り巻く喫緊の様々な課題に対し柔軟に対応するため、総長直轄の機動的な組織として、「未来戦略本部」を設置している。同本部内に課題ごとに理事を長とする部会を置くこととし、当面の課題として、「DX」、「経営的収入」、「大学院改革」、「大学憲章」、「SDGs」の5つを設定し、それぞれに係る施策等の企画、立案及び必要な調査分析を行うための部会を設置し、活動を開始している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②情報環境整備等 ③安全管理 ④法令遵守 ⑤他大学等との連携

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、令和元年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 国際連携研究教育局（GI-CoRE）における国際連携研究教育の推進

海外の有力な研究室を誘致し、共同研究・教育を行う国際連携研究教育局（GI-CoRE）の計4つのグローバルステーションにおいて、国際連携研究教育を推進している。ソフトマターグローバルステーションにおいては、学外委員による外部評価実地調査を実施し、世界トップレベルの研究者と協働した成果が多く、著名ジャーナルに掲載されるなど研究の生産性が高い点、生命科学院ソフトマター専攻を設置し、サマースクール等において卓越した研究者が学生を直接指導することで次世代の科学者を育成している点等、国際的な研究協力と教育の両方で評価され最上位のS評価を得ている。

共同利用・共同研究拠点

○ 高圧氷と水との界面に「高密度水」の存在を発見

低温科学研究所では、共同研究の開拓型研究課題において、成長・融解する高圧氷とその周りを囲む水との界面に、両者と明確に区別できる高密度水が存在していることを発見している。本研究成果は、これまでの通説を覆す画期的な内容であり、アメリカ化学会の科学雑誌に掲載され、本発見は様々なメディアに取り上げられている。

○ 世界最高の耐久性を示すプロパン脱水素触媒の開発成功

触媒科学研究所では、京都大学、東京都立大学との共同研究において、過酷な条件下で世界最高の耐久性を示すプロパン脱水素触媒を開発することに成功し、本研究成果は科学雑誌で公表されている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 革新的な診断技術の研究開発

約2,000例に上る新型コロナウイルス感染症例における唾液と鼻咽頭ぬぐい液のPCR検査診断精度の比較研究を実施した結果、唾液PCR検査の感度は約90%であり、より安全で簡便に採取できる唾液を用いたスクリーニング検査が標準法として適切であることを明らかにするなど、新型コロナウイルス感染症対応に貢献する革新的な診断技術の研究開発を推進している。

（診療面）

○ 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症患者の受入れのため、北海道から新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受けるとともに、周産期の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるため新たに9床を確保し、協力医療機関としての指定を受けるなどにより、延べ2,027名の新型コロナウイルス感染症患者を受入れ、北海道における新型コロナウイルス感染症対応に貢献している。

（運営面）

○ 診療環境の整備及び機能強化

中央採血室において、採血ブースの8ブースから14ブースへの拡張及び予約時間制の導入により、最長85分であった待ち時間を25分にまで短縮するとともに検査・輸血部において、検体検査統合システムの導入により凝固検査の結果報告時間を22分から15分に短縮するなど、診療環境の整備及び機能強化を推進している。